



# epooca

エポカ vol. 132

静岡県男女共同参画センター・あざれあ情報誌

2018年6月号

6/23 ~ 6/29 は、

男女共同参画週間

今年度のキャッチフレーズは、

『走り出せ、  
性別のハードルを超えて、今』

〈関連イベント〉

写真パネル展

女性先駆者たち



～平成の時代に、職業選択の壁に立ち向かい、夢をかなえた4人～

おおたに みほ  
大谷 三穂

(海上自衛隊 1等海佐)

ふじ あり  
藤 明里

(JAL パイロット)

みどりかわ いく  
緑川 郁

(横浜市消防局 消防司令)

あずま りょうこ  
東 良子

(海上自衛隊 1等海佐)

【展示期間】平成30年6月12日(火)～6月30日(土)

【場 所】静岡県男女共同参画センター・あざれあ

2F 展示スペース

※期間中、どなたでも自由にご覧いただけます

## この人に聞く!

## 木村 幸男さん (メンズサポート・静岡 共同代表)



## ●男性相談からみえてくること

10年ほど男性電話相談に携わっています。相談内容は多岐にわたりますが、多いのは、夫婦・パートナー関係でしょうか。例えば、妻が離婚したがっている、または、すでに子どもを連れて家を出てしまい、これからどうしたらいいか困っている。

そこには自分自身の反省や自己批判はなく、「なぜこのような仕打ちをうけてしまうのか」という被害者意識が目立ちます。そして話を聞いていくと、そこからはジェンダー意識に関わる複雑な問題が透けてみえてくるのです。

男はこうあるべきだ、女はこうあるべきだという、間違った伝統的な規範を、無自覚に引きずっているために、夫婦の人間関係などのトラブルの原因を、客観的に冷静に受け止められなくなっている男性が、なんと多いことか。

ジェンダー意識は、その人の生育環境から派生した体験が複雑に絡み合っ、後日になってから、たとえば夫婦関係の悪化といった形で、表面化する事例がほとんどです。つまり、いまだに根深く残る封建的な生活文化の規範が、民主主義教育を排除するかのよように、世代を問わず男性の精神的葛藤をつくり出している・・・逆に言えば、こうした誤ったジェンダー意識を改善していくことなしに、男性たちを苦しみから解放していくことは、不可能かもしれません。

## ●自分や他人のいのちを粗末にしないで!

相談に関わっていて考えさせられるのは、ひとりの人間の生活歴が、その人の現在の生活とその課題解決に、いかに大きく影響しているかということ。

私たちの生き方・考え方や人間形成は、育っていく家庭・教育環境から、じつに大きな影響をうけます。自分や他人の生き方・考え方を大切にすることを習慣が身につけていないと、他者や自分自身に対する配慮が欠け、生き方や行動が粗野になり、不誠実で雑な人間関係しかつくれなくなりやすい。自分のいのちを大切にできない人は、他人のいのちも大切にできないでしょう。

電話相談というものは、そうしたことに気づいて主体的に問題を解決できる力を身につけていくための、共同作業ではないかと思っています。

そのために相談員には、さまざまな人間を理解できる対話能力が求められるはず。俗に言う男性問題とは、共生のパートナーである女性たちと深い関連をもつだけでなく、社会が抱えるさまざまな人権問題に通底しているはず。ということから、相談員に不可欠な資質は、国際的にも通用する幅広い人権意識ではないかと思っています。

## ブックサポーター43

## 男だって悩んでる



## 『とまどう男たち：生き方編』

(伊藤公雄、山中浩司//編  
大阪大学出版会 2016年)

男性の自殺率は増え、若いうちから寄る辺のない男子が増えた今、男性自身がより生きやすい社会を作っていくことを求められる時代が始まろうとしています。変化にとまどいながらも、「男らしさ」という古い価値観から脱皮するために何ができるのかを考える1冊です。



## 『男性は何をどう悩むのか：男性専用相談窓口から見る心理と支援』

(濱田智崇、『男』悩みのホットライン//編  
ミネルヴァ書房 2018年)

男性たちが抱える男性ならではの「生きにくさ」。日本で初めて男性専用相談窓口を開設した著者が、現代に生きる男性特有の悩みを事例別に検討すると共に、具体的な支援を紹介します。「男もつらいと言ってもいいのだ」というメッセージが伝わってくる本です。



あざれあ図書室  
利用案内

貸出：図書5冊 ビデオ・DVD2本(2週間)

開室時間：月～金 9:00～18:00 土日祝 9:00～17:00

休室日：第1・3・5日曜日、図書整理日

TEL：054-255-8763 FAX：054-255-8759

午後2時の朗読会 in あざれあ  
もっと、詩を、～石垣りんと茨木のり子～

【日 時】平成30年7月16日(月・祝) 14:00～16:00

【場 所】静岡県男女共同参画センター・あざれあ(静岡市駿河区馬淵1-17-1)

【講 師】中村ともえ(静岡大学教育学部准教授)

【申込み】氏名、電話番号、年代を、TEL、FAX、メールにて下記までご連絡ください。

【連絡先】静岡県男女共同参画センター交流会議

TEL: 054-250-8147 FAX: 054-251-5085

e-mail: azareachiiki@gmail.com

詳しくは、[あざれあナビ](#)をチェック!

## あざれあメッセ2018

県民の皆さまに楽しみながら「男女共同参画」について知っていただく、あざれあ全館あげての大イベント『あざれあメッセ』! あざれあ館内をまわって、お楽しみいただけます!

開催日 **10/27** **土**  
6月下旬から出展申込みが始まります!

詳しくは、[あざれあナビ](#)をチェック!

男女共同参画社会づくり  
宣言事業所・団体

株式会社 グロージオ (島田市)

宣言事業所・団体 1,566件  
(平成30年5月31日現在)

### ★空撮女子が活躍!

昭和24年(1949年)の創業以来、ダムや高速道路の新設・修繕、商業施設の建設など、土木・建築分野で私たちの暮らしをハード面から支えている(株)グロージオ。

八木恋美(やぎれみ)さんと藪崎綾花(やぶさきあやか)さんの2人は、技術職として、土木関係の測量や図面の作成の他、ドローンでGPSを使って空撮したデータから3D図面化することで、各種の工事を将来的にICT化する事業に取り組んでいる。



八木恋美さん

入社10年目の八木さんは2児の母。「私は工業高校で建築・土木を学びました。祖父が大工だったこともあり、当初は建築分野を希望していましたが、土木系も屋外で仕事をするのが楽しそうだったので、この道に進みました。1人目を出産した時は、社内に女性技術職が私しかいなかったため、産休・育休の実績が全くなく、また制度についての知識もありませんでした。仕事を辞めるべきか迷いましたが、会社が、「自分が前例を作っていけばいいんだ」と思えるような環境を用意してくれたこともあり、辞めずに産休・育休を1年間取得しました。2人目の時もスムーズに制度を利用でき、今に至ります。現在は時短勤務で、仕事と子育てを両立しています」

同じく技術職の藪崎さんは入社3年目。グロージオでは八木さんに次ぐ2人目の女性技術職。「私も工業高校出身で、現場監督になりたいとこの道に入りました。実際の建築・土木の現場はとても厳しく、しんどい思いもいろいろしました。会社の配慮もあり、現在は現場から離れていますが、自分が関わった工事が建物として残っているのを見るとうれしいです。昨年7月から、「空撮女子」という形で八木さんとチームを組み、ドローンの操縦資格を取得、様々な場所に出向きドローンを飛ばしています。ドローンの操縦は、事故に至らないよう気をつけなければならないため、非常に緊張しますが、最先端の測量技術に携われることにやりがいを感じています」



藪崎綾花さん

グロージオでは、働きやすい職場環境づくりの取組みとして、ノー残業デーの実施や、積極的な年次有給休暇の取得を推進している他、メンタルヘルスケアとして、毎年社員のストレスチェックを行い、結果に応じ産業医の面接指導の機会を設けている。また、6年前に建て替えた新社屋では、それまでなかった女性専用トイレと更衣室も新たに設置。建築・土木分野で徐々に増えつつある女性技術者たちのために、男性たちと共に、性別にかかわらず同じように働きやすい職場を目指し体制を整えつつある。

寺田 望さん（株式会社 ビズホープ代表取締役／三島市）



★女性の新しい働き方を提案

株式会社ビズホープは、これまでにないユニークな手法で、新しい形のビジネスモデルを発信している。寺田望さんは、約5年前ビズホープを立ち上げ、企業の新規事業の企画開発や広報戦略などのコンサルタントとして取り組む一方、子連れOKの女性起業家のためのサポートオフィス「コトリスラボ」を運営し、独立・起業した女性クリエイターと地元の企業や自治体、支援機関などをマッチング、さまざまなプロジェクトを担うという仕組みを作った。三島市から始まったこの「コトリスラボ・モデル」は今、全国に広がりつつあり、ビジネスの世界に新時代の風を吹き込んでいる。

ビズホープが約2年前に始めた新事業が「musubi Japon」。日本の女性起業家たちを、世界の女性起業家と繋ぎながら、海外へのビジネス展開をサポートするというプロジェクトだ。

寺田さんは語る。「女性起業家が数多く活躍しているフランス・パリで現地の起業家たちとネットワークを構築したり、現地消費者のニーズや店舗運営のノウハウなどを学べるプログラムを取り入れることで、日仏それぞれの商品やサービスの開発に活かして行くことが目下の目標です。フランスでは、日本の食文化などに関心を持つ人が多く、これらの分野にまだ開拓されていないビジネスの芽があるといえます。

そして、子どもを育てながら自分のキャリアを継続することを実践している、同時代を生きるフランスの女性起業家たちの生き方・働き方から影響を受け何かを学び、自分自身の生き方や働き方を考えるきっかけを作れたらうれしいです。

将来的には、この交流プロジェクトをアジアや中東に展開することで、ビジネス領域を拡大していきたいと考えています。国内におけるビジネスが先細りするなか、女性だからと、ママコミュニティのみ、地元のみ、国内のみの狭い範囲でビジネスするのはもったいない。海外ビジネス展開という敷居が高いと思われがちですが、これからの海外販路開拓は、展示会への出展などの旧来的な方法から、もっと距離感の近い人と人とのつながりから始まっていくのではないのでしょうか。ミッションやパッションを同じくする者が、SNSなどを駆使して接点を作ることができれば、ビジネスにおける新しい領域を切り開いていけると感じています。そこで、先んじて世界の女性たちが国を越えて繋がることができれば、これまで誰も気づかなかった視点で、より柔軟なビジネスが生まれてくると期待しています」

あ ざ れ あ 相 談

悩んだとき、困ったときには、あざれあへ

女性相談

すべて女性の相談員、医師、弁護士による相談です。安心してお電話ください。



**0558-23-7879 賀茂**  
**055-925-7879 東部**  
**054-272-7879 中部**  
**053-456-7879 西部**

※混み合う場合がございます。時間をあけておかけ直してください。

月・火・木・金 9:00～16:00  
 水曜日 14:00～20:00  
 第2土曜日 13:00～18:00

※いずれも日・祝を除く



要予約・託児つき・無料  
 あざれあ女性相談の番号におかけください。

月	火	水	木	金
DV・ その他暴力	第3 弁護士相談	DV・ その他暴力	DV・ その他暴力	偶数月第4 精神科医相談
10:00～ 15:00	13:00～ 16:00	14:00～ 19:00	10:00～ 15:00	14:00～ 16:00

男性相談

生き方・家庭・仕事・健康等の悩み、男性相談員が対応します。

毎月第1・3土曜日 13:00～17:00

※つながらない場合は、少し時間をおいてかけ直してください。  
 ※第1・3土曜日が休館日の場合、次の週の土曜日に相談を実施します。

専用電話 054-272-7880